事 業 報 告 書

工組・支部名　：北海道電気工事業工業組合青年部
　　札幌電気工事業協同組合青年部　総務委員会
資料提出日：令和　２年　１２月　２２　日

1.【事業名】　地域貢献活動
　　丘珠高校イルミネーション・ライトアップ

2.【実施日時】　施工　　：令和２年１２月１０日～令和２年１２月１１日
　　点灯期間：令和２年１２月１４日～令和２年１２月２５日
　　撤去　　：令和２年１２月２６日

3.【実施場所】札幌市東区北丘珠１条２丁目５８９番地１
　　北海道札幌丘珠高校

4.【提言書2016との適合性】本事業に当てはまる項目番号と提言書ページ数をご記入ください

①人材育成と後継者育成（P.５～）　②組合員の経営安定化の支援（P.１２～）
③技術・施工品質の向上と経営能力の向上（P.16～）
④その他（　希望ある未来へ　）

◎項目番号：④　　◎提言書ページ：１９

5.【事業目的】
教育機関連携事業で繋がりのある札幌琴似工業高校の鈴木副校長様より工業系ではない札幌丘珠高等学校で校舎をイルミネーションでライトアップしたいとの話があり、紹介を頂いた。電気業界として付き合いが希薄な普通科の高等学校からの依頼であり、今回の依頼を受けることで今まで未開催の普通科高校での出前授業・業界説明会等、連携を取れるように関係を作っていきたいと考え企画した。
コロナ禍でも何かできることは無いかと真剣に考える高校生をイルミネーションで励まし、思い出に残るような【ものづくり】にしたい。

6.【事業内容】
①校舎正面入り口のライトアップ
②高校生の施工の補助

7.【参加員数】
生徒　　１２名
青年部　１８名（２日間）

8.【外部協力者】
㈱池下電設（イルミネーション貸出）
メディア関係（北海道建設新聞・北海道新聞・北海道通信社）

9.【事 業 総 額】

イルミネーションは丘珠高校生徒会で購入
資材関係は青年部所持品を提供

10.【事業の成果】

現在のコロナ禍により普段の生活を含め、部活の大会や発表会、修学旅行なども行けず、雁字搦めの生活を強いられている高校生に、みんなで一つの物を創り上げる喜びを与えることができた。特に、今年の３年生は思い出が少なく「なにかしたい」の気持ちにしっかり応えることができたと思います。

点灯式では高校生が率先して指揮を取り、寒さも忘れるほどの笑顔溢れるライトアップとなりました。みんなで写真撮影をしたり、友達とはしゃぐ姿があったり、そしてなにより、このご時世でもこんなに凄いことができた！と、高校生のものづくり、思い出作りに貢献できたことがこの事業の成果だと考えます。

また我々も、どんな時でもやれる事はあるということを、この事業を通して高校生達に教えてもらいました。

一緒に施工することで業界のアピールにも繋がりましたし、今後は普通科高校での出前授業や、業界説明会等に展開していく土台となったと考えます。

11.【反省点または工夫した点】

とにかく急な話で時間がなかった。結果は大成功ではあったが、プロセス的に少し無理があり、打合せや意思疎通で部員に負担が大きかった。

時間が無くてもやりきってしまうのが我々の強みでもあるが、無いなら無いなりのやり方がもっとあったと考えられる。次にまたこういう機会があるのならばもっとスムーズに部員全体に展開・共有できると思う。

12.【別添資料(写真・動画等)】

【施工風景】

【点灯式風景】

【点灯風景】

【新聞記事：北海道新聞】

イルミネーション 青やピンク華やか

丘珠高生発案「思い出に」

札幌丘珠高校の玄関を華やかに飾るイルミネーション（大島拓人撮影）

コロナ禍で部活動の大会や行事の中止が相次ぐ中、学校生活の思い出をつくってもらおうと、札幌市東区の札幌丘珠高校の玄関前に、同校生徒会執行部が発案したイルミネーションが設置された。ピンクや青の華やかな光が生徒や来校者の目を楽しませている。

10月からの新執行部が「日々の学校生活の励みにしてもらいたい」と企画。企画を知った札幌電気工事業協同組合青年部のメンバーが、玄関のひさしや周囲の木に張り巡らせた電飾約3千球の設置作業などに協力した。

生徒会副会長の2年太田真斗さん(17)は「今後も丘珠高校の名物として続いてほしい」。同協同組合の安藤慎也青年部長(45)は「生徒たちのイメージを形にする手助けができてよかった」と話す。

25日まで午後3時～7時に点灯する。（加藤祐輔）

【新聞記事：北海道建設新聞】

コロナに負けるな！ 丘珠高生へエール

札電協青年部

生徒とイルミネーション設置

コロナ禍で頑張る札幌丘珠高生を希望の光で元気づけたい。札幌電気工事業協同組合青年部は、札幌丘珠高生徒会が企画した校舎玄関前イルミネーションの設置作業に協力した。14日には生徒100人以上が玄関前に集まり、点灯式を開催。カウントダウンに合わせて光がともされる様子を見た生徒たちからは歓声が上がった。

同高の生徒会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校祭などの学校行事が中止になったことを受け、少しでも仲間を元気づけ、みんなで過ごした思い出をつくりたいとイルミネーションを企画。

色鮮やかな光を放つイルミネーション。コロナ禍で頑張る生徒を元気づけている

札電協青年部は地域貢献活動の一環で協力することとし、実現に向け11月から打ち合わせなどに入った。

10、11日の2日間で作業。装飾は生徒たちが中心となって取り組み、玄関前にある4本の樹木を1000個以上のカラフルな電球で彩った。また、高い部分の電飾は会員企業が高所作業車を使って設置した。

準備を進めてきた生徒会長は「初めての経験で難しい部分もあったが、点灯した時にみんなが喜んでくれてうれしかった」と振り返った。同高の飯田知男校長は「生徒たちが青年部の方と打ち合わせしながらここまでの企画を実現できたことに、成長を感じるし、誇らしく思う」と語った。

安藤慎也部長は「コロナ禍だが、少しでも生徒たちの元気につながればうれしい。私たちが普段している仕事で感動してくれて良かった。業界や仕事を知ってもらうきっかけにもなれば」と話した。

イルミネーションは25日まで点灯する予定だ。